

「医」を届ける。



写真／内藤順司

idea ロシナンテスの理念

「目の前の困っている人と共に歩み続けます」

目の前の困っている人に手を差し伸べましょう。自分で立ち上がるのできなかった人も、自分の足で立つことになるでしょう。そして、共に助け合いながら、歩んでいくことを目指します。手を差し伸べた人も、頑張って自分の足で立つことが出来た人も、立派なロシナンテです。共に歩んでいく姿がロシナンテスとなります。

「家族の絆と地域の和を大事にします」

スーダンでは、家族が助け合って生活をしています。子供たちは家の中のお手伝いをし、介護の必要なお年寄りは家族が代わる代わる面倒を見ています。社会インフラの整っていないスーダンでは、地域の和で助け合っています。震災直後の東北でも、家族や地域の助け合う姿には、日本の原点を見た気持ちです。現代の日本が見習うべきところが多くあります。

「世界と日本の子どもたちの明日の笑顔のために活動します」

人々はどうしても近視眼的になりがちですが、次の世代がどうなっているのかを考える必要があります。震災直後の避難所で生きる励みの一つとなったのが、子どもたちの笑顔でした。また、別々の国となった南北スーダンの子どもたちの笑顔が、両国の絆となる可能性もあります。次の世代の子どもたちの笑顔につながるように、今をどう生きるかが、とても大事です。

この三つを活動理念とし、この言葉を常に心に、今後も活動が続けて参ります。

philosophy ロシナンテスの哲学

みんなはひとりの為に
ひとりはみんなの為に

ONE FOR ALL ALL FOR ONE



写真／竹林尚哉

認定NPO・国際NGO

ロシナンテス

年次報告書 2014.4-2015.3



私たちNPO法人ロシナンテスの名前は、小説「ドン・キホーテ」に出てくるドン・キホーテが乗る痩せ馬のロシナンテに由来しています。「私たち一人一人は痩せ馬ロシナンテのように無力かもしれないが、ロシナンテが集まり、ロシナンテスになれば、きっと何かできるはずだ!」と考え、「ロシナンテス」と名付けました。今後もこれを信念として一步一步参ります。皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

NPO法人ロシナンテス日本事務局
〒802-0082 福岡県北九州市小倉北区古船場町1-35 北九州市立商工貿易会館7F
TEL:093-521-6470 FAX:093-521-6471 ✉info@rocinantes.org





スーダンへ

外務省辞職
NGOロシナンテス立ち上げ



「目の前で困っている人を助けたい」
肩書きも何もなくなった、たった一人の挑戦を
助けてくれたのは高校時代の仲間たち
「ロシナンテ」が集まればきっと大きな力に
なるはず…と信じて、スーダンへ。

病院や村での巡回診療を開始
(巡回診療事業開始)

地方の村は無医村であるため、診療の際には
日本にあるような機材はもちろん使えない。
聴診器一つで患者に触れ、五感を働かせる。
診療するには、人として向き合い、信頼関係が
大切だという医療の原点に立ち返る。

川原は、外務省の医務官としてスーダンに勤務していた。
そこでスーダン人の悲惨な現状をみて、
医師として手を差し伸べたいと考えた。
しかし外務省医務官は外務省職員および在外日本人にしか
医療を提供してはならないルールがあり、
目の前の現状と自分の置かれた立場に煩悶した。
「医者として、いや、一人の人間として、
何か出来ることがあるのではないかな？」
と考え、外務省を辞職し、帰国。
故郷の福岡でロシナンテスを立ち上げた。

2006
NPO法人認証



2009

ハサバツラ村に
女子学校を開校

学校に通えない村の女の子たち。
男女がともに勉強をする習慣の
ないこの村には女子の学校がなかった。
女の子たちも学校に通えれば、
将来、診療所の看護師になる
子どもがいるかもしれない。
村人とともに女子学校の建設に奔走した。
この村の未来を創るのは、子どもたち。

故郷の福岡でロシナンテスを立ち上げた。

2008
ハサバツラ村で
住民基本調査と
妊婦健診を実施
(母子保健事業開始)

2007

2006

2005

2004

2003

2002

2001

2000

ハサバツラ村に井戸を設置

井戸のない地域では不衛生な水を
口にするため病気になる人も多い。
そこで根本的な原因を改善するため、
壊れていた井戸を修復し井戸を設置。
きれいな水が手に入れられるようになった。

JICAと協働の3ヶ年
母子保健事業着手

スーダンの母子保健の水準は低く、
出産で命を落とす母親や、
5歳まで生きられない子どもが多い。
子どもたちが笑顔で健康に成長できるよう、
3年間に渡るJICAとの母子保健事業を開始。



2010

2009

2008

2007

2006

2005

2004

2003

2002

2001

2000

2011

東日本大震災が発災
東北事業部立ち上げ

東北へ

2011年3月11日の東日本大震災発生時に、
日本に帰国していた川原は、
すぐさま現地入りし、
医療・災害復旧ボランティア活動を開始した。



宮城県名取市・岩沼市の
避難所で巡回診療

避難所にいる方々の手を取り、
巡回診療を行った。



2011

南北スーダンの子ども達を
日本へ招待

天の川プロジェクトでは南北スーダンの
子供たちを被災地へ招き大運動会を開催。
いつまでもこの交流が続き、
彼らが日本とスーダンの架け橋となるように

2012

2013

2014

2015

2016

2017

2018

2019

2020

2021

2022

2023

2024

2025

2026

2027

2028

2029

2030

2031

2032

2033

日本とスーダンの架け橋へ
ゼイン君、日本へ留学



2012

2013

2014

2015

2016

2017

2018

2019

2020

2021

2022

2023

2024

2025

2026

2027

2028

2029

2030

2031

2032

2033

2034

2035

2036

2037

2038

2039

2040

2041

2042

2043

2044

2045

2046

2047

2048

2049

2050

2051

2052

2053

2054

2055

2056

2057

2058

2059

2060

2061

2062

2063

2064

2065

2066

2067

2068

2069

2070

2071

2072

2073

2074

2075

2076

2077

2078

2079

2080

2081

2082

2083

2084

2085

2086

2087

2088

2089

2090

2091

2092

2093

2094

2095

2096

2097

2098

2099

2100

2101

2102

2103

2104

2105

2106

2107

2108

2109

2110

2111

2112

2113

2114

2115

2116

2117

2118

2119

2120

2121

2122

2123

2124

2125

2126

2127

2128

2129

2130

2131

2132

2133

2134

2135

2136

2137

2138

2139

2140

2141

2142

2143

2144

2145

2146

2147

2148

2149

2150

2151

2152

2153

2154

2155

2156

2157

2158

2159

2160

2161

2162

2163

2164

2165

2166

2167

2168

2169

2170

2171

2172

2173

2174

2175

2176

2177

2178

2179

2180

2181

2182

2183

2184

2185

2186

2187

2188

2189

2190

2191

2192

2193

2194

2195

2196

2197

2198

2199

2200

2201

2202

2203

2204

2205

2206

2207

2208

2209



寺子屋第一期卒業生が就職！

2011年に中学三年生になった子供たちが寺子屋の第一期卒業生です。全員が無事に志望校に入学し、早いもので卒業を迎えました。就職を希望した子ども達から秋口に内定をいただいたと嬉しい報告がありました！はばたけ！



第41回大山健康財団賞 受賞

海外において医療協力を尽力されている方に贈られる「大山健康財団賞」を川原尚行が受賞しました。ハサバツラ村の診療所の立ち上げや、スーダン人の医療スタッフを配置して医療活動を継続している点を評価していただきました！



川原尚行、初の自叙伝を出版いたしました

ご縁に恵まれ、これまでの歩みと想いを一冊の本にすることができました。ありがとうございます。ロシナンテスの活動と私たちの熱き思いが、より多くの方にご賛同を得られる一助となれば幸いです。この本の著書印税の全額は、スーダンでの病院建設費に充当いたします。

「行くぞ！ロシナンテス 日本発 国際医療NGOの挑戦」
川原尚行・著／1,800円(税別)／山川出版社

ゼイン君、日本の高校を卒業！ そしてスーダンへ！

2011年の「天の川プロジェクト」で日本を訪れたゼイン君。2012年から多くの方のご支援を受け日本の高校に通いました。2015年春、優秀な成績で卒業し大学にも合格しましたが、スーダン帰国を決意し母国で勉学とサッカーに奮闘中です！



スポーツ×歯科検診の コラボレーション！

スポーツを通じた健康増進プログラムを5月・12月に実施しました。サッカー大会を開催しながら約1,000名の子供たちの歯科検診を実施しました。日本人歯科医師の藤瀬先生と原田先生にご協力いただきました。



スタディツアー開催・「無東西」開催

9月、ハルツーム大学図書館内に建設した日本スーダン交流館「無東西」のオープニングセレモニーに合わせ、ロシナンテス初のスタディツアーを実施しました。ロシナンテスの活動やイスラム社会の理解が深まったと大好評でした。

2014年度 ロシナンテス6つの出来事

さあ、共に歩みましょう。明るく健やかに生きる未来へ。

日本で私たちが受けることのできる医療ではないけれども、これらも広い意味での医療であると考えます。

赤ちゃんが健やかに生き延びられるように母子保健教室を行う。

女の子でも教育を受けられるようにする。

泥水をきれいな水にする。

ロシナンテスと共に

多くの赤ちゃんが5歳を待たずに亡くなっています。

多くの女の子が教育を受けられません。

多くの人が泥水を飲んでいます。

日本では誰もが享受することのできる医療。

診療を受ける。治療を受ける。薬を飲む。手術を受ける。

皆さんが考える医療とは、どのようなものでしょうか。

「医」を届ける。



広島大学法学部卒。川原の高校ラグビー部の後輩。震災直後、川原より誘いを受けロシナンテスへ入職。東北事業部長を務め、14年より事務局長を兼任。66年生。

大嶋 一馬

ロシナンテス事務局長

よりお願い申し上げます。

これまでの皆さまからのご支援を深く感謝いたしますとともに、今後、一層のご協力を賜りたく心

歩みながら続けてまいります。

これからロシナンテスは医療を広くとらえ、スーダンと日本の地域住民が自立と共助のなかで「医」を自ら構築し、実践してゆくためのサポートを共に

に精進してまいります。ロシナンテス発足10年目にあたり、見直すところは真摯に見直し、私どもが掲げる「医」を届ける活動

に精進してまいります。

ここからロシナンテスは医療を広くとらえ、スーダンと日本の地域住民が自立と共助のなかで「医」を自ら構築し、実践してゆくためのサポートを共に

に精進してまいります。

ここからロシナンテスは医療を広くとらえ、スーダンと日本の地域住民が自立と共助のなかで「医」を自ら構築し、実践してゆくためのサポートを共に

に精進してまいります。

ここからロシナンテスは医療を広くとらえ、スーダンと日本の地域住民が自立と共助のなかで「医」を自ら構築し、実践してゆくためのサポートを共に

ここからロシナンテスは医療を広くとらえ、スーダンと日本の地域住民が自立と共助のなかで「医」を自ら構築し、実践してゆくためのサポートを共に

そして、2015年度、10年目を迎えます。

皆さまのご助力のもと、スーダンでは電気・水道・

ガスなどの社会インフラの整っていない僻地に医療を届け、東北の被災地では津波で家族や友人、家や車や畑などを失った人々と共に復興に向けて歩んで参りました。

ところが、スーダンと東北の被災地の方々ばかりを見つめすぎていたため、自らの足元を見ることを少しばかり怠っておりました。反省すべき点も多く

ございます。

ロシナンテス発足10年目にあたり、見直すところは真摯に見直し、私どもが掲げる「医」を届ける活動に精進してまいります。

ここからロシナンテスは医療を広くとらえ、スーダンと日本の地域住民が自立と共助のなかで「医」を自ら構築し、実践してゆくためのサポートを共に

ここからロシナンテスは医療を広くとらえ、スーダンと日本の地域住民が自立と共助のなかで「医」を自ら構築し、実践してゆくためのサポートを共に

ここからロシナンテスは医療を広くとらえ、スーダンと日本の地域住民が自立と共助のなかで「医」を自ら構築し、実践してゆくためのサポートを共に

ロシナンテス理事長・医師
川原尚行

ありがとうございます。

最後に、改めて感謝の気持ちを述べたいです。

程、よろしくお願い申し上げます。

続けて参りたいと思いますので、今後とも御指導の程、よろしくお願い申し上げます。

皆様方の御支援があり、ここまで来ることが出来ました。私は、初心に帰り、原点に立って新たな出発をここから行う覚悟であります。皆様方とともに歩み

と還元されてきます。

また、我々は、スーダン、東北の活動を通じて、「如何に生きていくのか？」ということを学び続けています。これは、まさに「共助」となって、我々のもとへ

「世界どこにでも「医」を届ける！」

「医」は、人への癒しをも含む大きな意味のものです。いまは、スーダン、震災後の東北に「医」を届けて

いますが、今後は次の世代を育てながら、活動が世界に広がっていくように精進して参ります。その際に、

相手の権利を尊重して、共に助け合うことが必要です。「自立」と「共助」です。支援を継続している

だけでは、依存性を生みます。「如何に自立してもらうのか？」を考えながら、支援の一方通行とならない

ように気を付けていきます。

「世界どこにでも「医」を届ける！」

皆様方の一方ならぬ御支援により、ロシナンテスは

9期目を終えることとなりました。これも皆様方のおかげであります、心から御礼を申し上げます。

10年目を迎えるにあたり、我々の活動の目標を考えました。



九州大学医学部卒。1998年に外務省に入省、タンザニア、スーダンに医療官として赴任。2005年に外務省を辞職しロシナンテス設立。65年生。

スーダンの現状

スーダンでは、南北の間で20年にわたって内戦が続きました。その後、2005年に包括的和平合意が締結され、6年間の暫定期間を経て、南部の住民投票で独立が決定しました。そして2011年、スーダンから南スーダン共和国が分離独立を果たしました。

暫定期間には、宗教が混在する状態から、スーダンはイスラム教、南スーダンはキリスト教となりました。

それから4年が経過し、スーダンではスーダン純化政策が進められています。国際NGOは、事業を進めるにあたって、スーダン人だけで構成される国内NGOと提携し、スーダン政府の承認を得る必要があります。スーダンの人々を育成させるための純化政策ですが、スーダン政府が関与する場合が多く、われわれ外国人にとって窮屈な一面もあります。その反面、われわれの身の安全が確保されるという利点もあります。

スーダンのバシル大統領には、2009年に国際刑事裁判所から逮捕状が発付されています。罪状は、スーダン西部ダルフル地方での紛争責任です。しかし2015年4月にあった大統領選挙で再選され、極めて強い権限を持っています。大統領の強権のもと、テロが発生する他国とは裏腹に、スーダン国内ではテロ行為を抑え込んでいます。首都のハルツームでは治安がよく、比較的に安全が保たれています。

内戦終結後、富裕層を生み出している一方で、米国からの経済制裁の影響があり、経済状況は芳しくありません。物価が高騰したため、一般庶民の生活は苦しくなる一方です。結果的に、富裕層と貧困層の格差が広がっているのが、スーダンの現状です。



なぜ、ロシナンテスはスーダンで活動をしているのか

2002年、川原は大使館の医務官としてスーダンに赴任しました。しかし、日本政府が内戦中のスーダンへの援助を停止していたため、目の前で苦しむスーダンの患者さんを救うことが許されなかったのです。川原は外務省を辞して、スーダンで医療支援を始めました。これが、ロシナンテス活動のきっかけです。

もちろん、スーダン以外にも、さまざまな国や地域が援助を必要としているのは承知しています。ですが、ロシナンテスはこの縁を大切に、スーダンでの活動を続けています。

スーダンの人たちに一度深くふれ合うと、だれでも彼らの魅力に取りつかれてしまいます。彼らは、裕福でない生活の中で、今を懸命に生きているのです。そして余所から来た人に対して、とても親切に振舞ってくれます。また、勤勉なところもあります。こうした人間性に加えて、すぐそばには広大な土地やナイル川という資源もあります。つまり、政治状況が安定さえすれば、スーダンは発展していく可能性を秘めているのです。

スーダンであると思います。また、昨今、イスラム教に対して多くの誤解が生じています。だからこそ、われわれ非イスラム圏の人間が、イスラム教への正しい理解を進めていくべきなのです。それが、われわれの使命であると思っています。ロシナンテスのスーダンでの活動を通じて、イスラム理解が深まることを期待しています。

医療を超えたサポートで発展を

ロシナンテスの活動は、スーダンの現地住民と行政組織、日本人とスーダン人のスタッフが信頼関係を築きながら進めてきたものです。いわば、非イスラムである日本と、イスラムであるスーダンの考え方が融合した活動だといえます。

2007年スーダン東部、シェリフハサバツラ村での活動は、日本人スタッフが村に住み込み、医療を提供するところからはじまりました。日本人スタッフは、村が抱えるさまざまな問題に直面するなかで、解決の手段として井戸を掘ったり、学校を建設したりと、医療を越えたサポートをすすめました。その結果、多角的な村の発展に寄与することができたのです。この活動は、彼らの自立を促すことに

つながりました。そして現在、村人や地方行政の協力を得て、彼らだけで全ての施設を運営しています。一方、われわれ日本人は、彼らの生活の中から、生きることの知恵を授かることもできました。これこそまさに、自立と共助の実践といえるでしょう。

われわれは、これまで10年にわたり、スーダンと日本との架け橋として交流を続けてきました。そのなかで、多くの接点を生み出しています。

東日本大震災のあとには、南北スーダンの子どもたち22名を東北に招待しました。そのなかのゼイン君は、日本の高校に留学しています。また、大学、医療関係者10名以上を日本での研修に招きました。この縁で、1名の大学院生が日本に留学を果たしています。日本の高校に留学したゼイン君はすでに卒業し、スーダンへ帰国しました。彼の影響もあって、いまスーダンでは、日本語ブームが巻き起こっています。

これまで、われわれは多くの種を蒔いてきました。ようやく芽が出てきたようです。やがて花が咲き、果実が実ることでしょう。われわれも多いに期待しています。

「自立」と「共助」が 道を拓き、未来をつくる。



上／助産師トレーニングの様子。感染対策や医療器具の消毒方法を学びます。左／保健センターでの実習。左が予防接種担当者。薬の説明をした上で接種します。右／保健センターにて助産師の実習。妊娠歴などの聞き取りも重要です。

**巡回診療スタッフと
村落助産師のトレーニング**

医療にかかわるスタッフは、つねに正確な知識と安定した技術を持つていなければなりません。そこでロシナンテスでは、定期的にスタッフをトレーニングし、彼らの知識と技術を再確認しています。その対象となるのは、現地の巡回診療スタッフや村で働く助産師です。

2014年11月には、巡回診療スタッフ（栄養師・予防接種担当者、助産師）にトレーニングを実施しました。さらに2015年2月には、私たちが関わっているワドアブサレ地域だけでなく、シャルガニール保健省管轄のワディソバ地区・アブデリック地区のスタッフにもトレーニングをおこないました。その内容は、いまま実際に彼らが取り組んでいる業務そのものです。たとえば、栄養や予防接種の知識を確認したり、妊婦健診の基礎を尋ねたり。さらには、保健センターで、実際の

患者さんに対する実習をおこないました。その結果、私たちと活動を続けているワドアブサレ地域のスタッフは、優秀であることがわかったのです。ほかの地域のスタッフと比べても、理解度や技術力が高く、とても頼もしく見えました。

また2014年12月には、ワドアブサレ地区の助産師に対して、感染対策、分娩に使用する器具類の消毒法などの再確認を行いました。スーダンの医療スタッフは、政府が提供するトレーニングを受け、そのため、現地スタッフからは「知識の確認ができて、とてもよかった」「自分が担当する部署だけでなく、医療の知識を広く勉強することができてきた」「みんなで一緒にトレーニングを受けて、チームの結束力が高まった」と、嬉しいコメントが寄せられています。今後も継続的にトレーニングをすすめて、スタッフや村落助産師の技術向上をめざしていきます。

診療所建設に向けて

巡回診療では、2週間で約30村を回っています。そのため、緊急対応や継続的な診療ができません。十分な医療を届けるには、やはり診療所の建設が不可欠です。そこで、村の人口と周辺の状況を踏まえたうえで、3つの村を選択。ここに診療所を建設することになりました。

3つの村は、セレリア、アラハンダ、ワドシュエインに決まりました。2014年10月、シャルガニール保健省のメンバーと診療所建設への活動がはじまりました。まずは、セレリアの診療所建設をめざします。さらに診療所で働くメディカルアシスタント、栄養師、予防接種担当者を村から選出し、トレーニングする予定です。

一方で、継続的なケアに向けた体制づくりもすすめます。約30の村から選出した2名の代表者に、村の病人や障害を持つ人々たちを把握してもらい、継続的にサポートします。

この仕組みが完成すれば、残るほかの村へ医療サービスを提供できるように考えています。



アラハンダでのミーティングの様子。集会には女性も参加し、診療所再建への強い意欲を感じました。



医者がいない村に、
医療を届ける。

巡回診療

ROCINANTES ANNUAL REPORT 2014

社会インフラが整っていない。
スーダンのほとんどの村が抱える問題です。

社会インフラが十分ではない。その現実が、スーダンでの医療活動を難しくさせています。首都ハルツームから1〜2時間ほどの距離にあるハルツーム州シャルガニール郡ワドアブサレ地区。首都の近くであるにもかかわらず、社会インフラはほとんど整っていません。そのため十分な医療施設がなく、たとえ病気になるっても、適切な診療を受けることができないのです。

こうした状況から、ハルツーム州保健省は、医療サービスチームが車で村々を回る巡回診療を展開し、村人の健康を守ってきました。チームのメンバーは、栄養士、予防接種係、助産師です。このシステムをより向上させるため、ロシナンテスはハルツーム州保健省と協力。2013年から、基本的な病気の診療ができるメディカルアシスタント、検査技師、統計係の3名を追加し、医療の充実を図っています。

巡回診療のメンバーは毎月、ワドアブサレ地区にある約30の村を2週間かけて回り、よりよい医療サービスを届けるために尽力しています。

〈健康教育〉 ヘルスプロモーション

ヘルスプロモーションとは、住民の健康意識や病気の予防の知識を高めるためにすすめている活動です。巡回診療を展開しているワドアブサレ地区の約30村を

対象に実施しています。

2014年11月、首都ハルツームから約100km（車で約2時間）のアラハンダ村で、ヘルスプロモーションをおこないました。アラハンダ村は、ロシナンテスが診療所の再建を考えている村でもあります。

集会当日、開始時間に多少の遅れはあったものの、村人たちは事前に話し合ったとおり、テントやイスを並べ、準備万端に会場を整えて待っていました。今回は女性を対象に、妊娠中の注意や妊娠期に必要な栄養、妊婦健診の重要性、また産後健診や家族計画について説明しました。会場には、男性や子どもたちも集まりました。おかげで、多くの人々に健康教育を実施することができたのです。

会場には、ポスターを展示して、わかりやすいアピールを心がけました。さらにビデオ鑑賞ができる部屋も用意して、村人たちの意識向上に努めました。

妊婦だけでなく、参加してくれた女性たちに健診もおこないました。必要があれば、検査や薬まで処方したのです。すると、終了する間際まで多くの人々が列をつくり、集会は大盛況となりました。

アラハンダ村のような地方の村では、健康教育はおろか、こうした大規模なイベントが開催されることなく、ほとんどありません。そのせいもあってか、村人たちははよほど嬉しかったのでしょう。講義が終わると、村の男性を中心にダンスがはじまりました。まるでお祭りのような



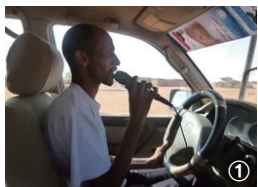
準備から集まるアラハンダ村の女性達。テントに入れなかった男性や子ども達も会場の周りを囲んで、話に聞き入っていました。

雰囲気のおかげで、会は幕を閉じました。

このアラハンダ村のように、私たちはこれまで、大人を対象にした健康教育をおこなってきました。今後は、村の将来を担う子供たちにも焦点を当て、大人から子どもまで村人全員を巻き込んでいきたいと考えています。これをコミュニケーション・モビライゼーションといいます。

子どもたちに健康教育をおこなう方法として、小学校でのスポーツ大会を考え、ここに参加した子どもたちにも、簡単な健康教育をすすめていく予定です。その実現のためには、村の学校と連携する必要があります。先生たちとも協力しながら健康教育の普及に努めていきます。

行くぞ！巡回診療



巡回診療の朝は7時から。すぐに日差しが強く暑くなるので早朝から仕事に出かけます。目的の村に着くと、マイクで巡回診療が来た事を村人に知らせます①。予防接種が必要なお子さんをお持ちの方は外に出てきてください②。放送を聞きつけて赤ちゃんとお母さんが集まって来ます③。まず、赤ちゃんの身長を測ります④。体重を測ったら、次は予防接種⑤。

助産師さんは家庭訪問④。赤ちゃんの体重をはかり、ちゃんと母乳が出ているかチェックします。

巡回診療は炎天下の中での仕事のため体力を使います。村人が提供してくれるジュースや水は本当にありがたいです⑤。また、丁度朝ごはんの時間にあたり、村人がご飯を提供してくれる事も多々あります。また、夜は村人の家にお世話になります。

電気が無いので、水を使って冷蔵保存が必要な薬を保存します⑥。2週間の移動中、水がすべて解けて水になる事が数回あります⑦。32村で水が売っているのは1村のみです⑧。また、もちろん水だけでなく巡回診療車の給油のため、何度も町まで戻る必要があります。

ロシナンテスとシャルガニール保健省のメンバーは、毎月モバイクリニックスの視察に出かけます⑨。時々診療を拒否される場面に出くわします。そんな時は、健診や予防接種の重要性を丁寧に話します⑩。村には障害を持ったお父さんも多く、リハビリの方法を家族に伝えるのも大切な仕事です。

予防接種係・栄養師・助産師が車で回っている間に、メディカルアシスタントと検査技師は一箇所に拠点を構えて診療を行います⑪。時には、夜間懐中電灯をつけながら診療する事もあります。村人にとって月一回の診療はとても貴重で、遠く離れた所からも口バでやってきます⑫。

ご覧のように村々を移動しながら、巡回を終えるまで2週間チーム一丸となり診療を続けています。





上／多くのチームから選手が参加するサッカー大会。下／サッカー大会に集まった少年たちに歯科検診をしている様子。順番を待つ子どもの不安そうな表情が、かわいい。

新巡回診療車・牽引車

これまで巡回診療に使用していた車が古かったため、みなさまから新しい車と牽引車をご支援いただきました。荷物を運ぶための牽引車は、大阪うつぼロータリークラブ様からご寄付をいただきました。巡回診療に使用するランドクルーザーは、支援者のみなさまからのご支援に加え、歌手のさだまさしさんからもご寄付をいただきました。加えて、ロシナンテス理事長の川原が北九州マラソンを完走した際に募った寄付も、大きなチカラになりました。

2015年を迎えるとき、ロシナンテス事務所に新しい車が届きました。道なき道に行く巡回診療は、過酷をきわめます。灼熱と砂漠のフィールドに出る前に、2000キロほど試験走行を行いました。そして2015年4月、新しい車での巡回診療がはじまりました。車が新しくなったことで、私たちスタッフの作業効率は格段にアップしました。以前の車は、車の屋根に荷物を積載していたため、作業が大変でした。しかしいまでは、車の荷台に荷物を載せられるため、作業時間が大幅に短縮できました。また、車内にスタッフのスペースができ、2週間の過酷な巡回診療にも少しの快適を得ることができました。

これもひとえに、支援者のみなさまがロシナンテスの活動をご理解いただいているからこそ実現できたことです。ロシナンテスをとおして、スーダンの人々を温かくサポートしてくださるみなさまに、心より感謝を申しあげます。これからも活動に力を注いでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

スポーツ事業

2009年からはじめた少年サッカー教室は大きく成長し、いまでは、1000人（10歳～14歳70人、15歳～17歳30人）の参加者を抱えています。卒業生のうち2人は、オリンピック代表チームに選出されました。これも、3人の歴代日本人コーチが熱心に指導してくれたおかげです。14年度の途中からスーダン人のみのコーチとなり、現在は女性も含めて4人のコーチがいます。

子どもたちは、サッカーが大好きです。そこで、サッカーの大会に歯科検診を取り入れることにしました。そうすれば、多くの子どもたちに受診のチャンスが生まれるのです。スポーツに医療を取り込むことは、効果的に効率的な取り組みだといえます。歯科検診は、日本から2人の歯科医を呼び寄せて実施しました。ハルツーム大学の歯学生たちとも、また地域の方々とも協力しておこなったサッカー大会と歯科健診の同時開催は、大成功をおさめることができました。

ドクターカーでの検診や診療活動

ロシナンテスが巡回診療で訪れている村々にも、診療所はありません。しかし、ここでできる検査は、血圧測定や簡単な血液検査に限られているのが現状です。こうした状況の改善に貢献できるものとして、日本の企業が開発した「ドクターカー」があります。ドクターカーには超音波検査機器、心電図、自動血圧計、遠隔診療のための設備、虹彩認証による個人識別システムが搭載されています。

ドクターカーは、国際協力機構の助成事業でスーダンに7台導入されました。このなかの1台をロシナンテスが使わせていただき、実証試験を行いました。2015年2月、はじめてドクターカーで巡回診療に行きました。しかし、舗装されていない道路を走るため、砂地にタイヤが埋もれて立ち往生したり、重量があるためにスピードが出せなかったりして、到着までに時間がかかってしまいました。残念ですが、巡回診療には使うことはできません。

そこで、日本企業やスーダン保健省・国際協力機構と話し合った結果、保健省に譲渡する事が決定しました。今後、保健省の管轄のもと医師・歯科医・臨床心理士のチームを中心とした学校における生徒の健康診断を中心に活用される事が決まっています。巡回診療は、この地域のみでなく、多くのアフリカ諸国の問題であり、過酷な環境に耐えうるドクターカー（巡回診療車）の開発は必須で、今後、日本の自動車メーカーなどに提言していきます。

ました。

こうした取り組みをすすめている最中に、スーダンは南北に分裂しました。そのため、女子チームは解散を余儀なくされたのです。そして日本では、東日本大震災が起きました。震災のあと、「天の川プロジェクト」と題して、南北スーダンの子どもたちを被災地に招きました。これをきっかけに、ゼインという一人の少年が日本に高校留学を果たしました。現在、ゼインは卒業してスーダンに帰国。後輩たちを指導しています。彼との協力体制は、今後も継続したい考えです。さらに、現在はロシナンテスが運営している少年サッカー教室をいずれば保護者に委ねたいと思っています。

スポーツと医療のコラボレーションは、現在おこなっている巡回診療にも応用していく予定です。具体的には、各地域の学校と連携を図り、地域ごとにチームを結成。あわせて指導者の育成をすすめ、地域のヘルスボランティア（保健指導員）と連携して、保健教育を実施していきます。



牽引車を使用する前は荷物をいっぱい車の屋根と内部に詰め込んでいました。



フィールドでの牽引車。これに大量の荷物を詰め込んで、2週間の長旅に出発します。



新巡回診療車と牽引車をバックに、モバイルクリニックのスタッフと記念撮影。



ドクターカー。国際協力機構助成事業でスーダンに導入された7台のうち、私たちが使っていた1台。



診療所。食糧はここに保管され、供給もここでおこなわれます。

栄養改善事業

ハルツームから西に車で8時間の距離にある北コルドファン州。2015年1月、ここで、国連WFPとスーダン国内のNGOとの連携による栄養改善事業がスタートしました。ロシナンテスにとって、国連と組むのは初めてのことで、

事業では、まず、栄養士が子どもの身体計測をします。不良と判断された場合、その子は栄養補助の対象となります。現在、5歳以下の子ども700人以上が栄養不良と判断されました。この取り組みでは、地域の人々がボランティアで参加。働いてくれた対価に、食糧を配布しています。WFPの事業は契約期間が半年ですが、地元の保健省からの強い要望もあり、活動期間をさらに延長しようと計画中です。またWFPでは、スーダンを緊急フェーズから復興フェーズに切り替えることにしており、食糧配布に加えて、人材育成もすすめていきます。国連、スーダンの国内NGO、州保健省と連携を取りながら、我々も学んでいると思います。

医療技術支援

わが国の高度医療をスーダンに導入する。それはつまり、日本の医療機器メーカーがスーダンで経済活動をはじめる契機にもなります。そこで私たちは、日本企業がスーダン進出で得た利益の一部をロシナンテスの巡回診療に支援いただくという構想を掲げました。すると、この計画は経済産業省の医療機器サービス国際化推進事業に採択されたのです。さらに、スーダンで私立の血液透析センターを設立するというプロジェクトへと発展。私たちは、その実現に向けた調査をはじめました。

しかし、スーダン政府が血液透析療法の支援をすすめることになり、計画を断念しました。計画は頓挫しましたが、調査の過程で、私たちは大きな成果を手にしたのです。ニプロ株式会社からは、2台の透析機器を寄贈いただきました。加えて日本人技師が常駐し、スーダン人技師たちへの講習会も開催しました。株式会社セントラルユニからは3チームの派遣。福岡県の飯塚病院からは、医師と臨床工学技士の派遣を受けました。さらに日本から内視鏡専門医を招聘。スーダン人医師への指導をお願いしました。

日本の臨床工学技士の団体（JMETs）は、ほぼ毎年、スーダンを訪れ、スーダンの臨床工学技士を指導しています。2013年には、スーダンの医師と臨床工学技士を日本に招き、ニプロ株式会社と飯塚病院で研修もおこないました。

また、スーダン医療界の重鎮であるスレマン教授からは、心臓カテーテル検査での協力を要請されました。そこで、この分野の医療機器メーカーと協力し、器材の納入を果たしました。

交流事業

2014年9月7日～9月13日に、ロシナンテススタディツアーを開催しました。



モバイルクリニック活動地、オルワン村で村人との交流

東北事業部のメンバーや歌手のしおりさんを含む総勢23名がスーダンを訪れました。開館前の「日本スーダン交流館 無東西」を掃除したり、書籍整理をしたりと、お手伝いをお願いしました。無東西のオープニングセレモニーでは、東北メンバーが民謡や歌を披露しました。また巡回診療の活動地であるオルワン村では交流クリニックを体験。病院視察、ナイル川クルーズ、JICAや大使館員とのワークショップなど充実したスケジュールをこなし、最終日はオンドウルマンマーケットで民芸品などを購入しました。このツアーをとおしてロシナンテスの活動をはじめイスラムへの理解、文化交流、スーダンの魅力などを感じていただけたと確信しております。

今後もスタディツアーの開催、「無東西」での日本語教室、各ワークショップなどを予定しています。スーダンはイスラム教の国です。本来のイスラム教をご理解いただけるように、スーダンの情報を発信していきます。そして日本とスーダンの文化交流をさらに深めていきたいと考えています。



賑やかなハルツームにある静かな和の空間「無東西」

ハルツーム大学に、スーダンではじめて日本文化を感じるスポット「日本スーダン交流館 無東西」が誕生しました。設立に当たっては京都の工務店、デザイン、大工さんがスーダンに入り、約1週間で基礎を造成。スーダン人の大工さんに引き継ぎ、完成させました。館の名称である「無東西」には、立ち位置が変われば、東も西もない、という意味が込められています。

オープニングセレモニーには、約300人が集結。盛大におこなわれました。館の床の間には、今年の漢字。知られる清水寺貫主、森清範様の手による書「無東西」が鎮座しています。開館後は自習、読書はもちろん、押し花教室など定期的なワークショップが開催されています。



右／私立病院の視察。左／内視鏡専門医による指導風景。





亘理町 災害公営住宅 集合型

現在、津波に被災された方々は、
①災害公営住宅に移住した人
②新天地に自宅を再建した人
③震災前の自宅を改修した人
④仮設住宅に残っている人
の4パターンに大きく分けられます。
仮設住宅を退去し、新たな生活を始めたらひと段落し、楽しく落ち着いた生活を送れるだろうと思っていました。話を聞けば聞くほど、現実を知れば知るほど、そこに横たわる目には見えない問題があることを知りました。

そんななか、震災時に小さな子供が
あった世代の多くの方が仮設住宅を
退去していきました。5年の月日の
経過により子供が大きく成長し、狭い
仮設住宅での生活がより困難となった
ためです。高齢者も一緒に退去する
ケースもあります。若い夫婦は共働き
をし、孫たちは学校へ行き、高齢者は
知らない土地の新しい家で一人きり
となり、孤独にさいなまれます。もと
もと夫婦二人きりやお一人で生活を
している高齢者も多くいらつしやい
ます。

東日本大震災の復興計画は地方
自治体の裁量で整備されているため、
その進捗に大きな開きが生じています。
例えば、ロシナンテスが最初に被災
地支援を始めた名取市は未だ68・9%
の方々が仮設住宅で生活していますが、
現在、主な活動地である亘理町は37・
7%まで減少しています。(2015・
3月末時点)

東日本大震災の発災から 5年たった今の現状



なぜ、ロシナンテスは 東北で活動をしているのか

仮設住宅を退去し、心機一転、新たな
生活に踏み出すご家庭が増え、一見復興
が進んでいるように見えますが、小学生
は近所に友達がいなくなり、高齢者は外出
さえままならない方もいます。

ある五年生の女の子は、家族そろって
改修された自宅に戻りました。ところが、
周りに戻ったお宅はほとんどなく、小学生
は一人もいません。だから、毎日「寺子屋」
に通ってきます。あるおばあさんは、息子
夫婦が新たに建てた家に、孫も一緒に
移転しましたが、朝から夜まで広い家に
一人きりです。「健康農業 亘理いちご畑」
に参加しているときに一番幸せと言いま
す。

現地にいる私たちには、「復興」という
言葉が何を指すのか、とても難しい問題
です。「復興」とは何かと問われても、
うまく返答できないかもしれません。
私たちがつぶさに見てきた東北の「復興」
は、一歩前に進んだり、一つ何かが解決
されると、必ず新たな問題が発生します。
私たちは、震災直後から、ずっとこの
地に居を構えて、被災地の方々と共に歩
いてきました。ですから、きつと新しい
問題に気付くのです。

それが、私たちが東北で活動を続ける
最大の理由かもしれません。

心の居場所づくりを

震災によって失われたものは大切な
家族や友人、家や畑など、普通に生活して
いれば誰にでもある「暮らし」そのものだ
です。日本は豊かな国ですので、仮設住宅
に暮らす人々も減ってきており、目に見
える「暮らし」は徐々に回復に向かいつつ
あります。

ですが、目に見えない「暮らしこそ、
被災者の方々が対峙していかなければ
ならない、真の意味での復興である」と
私たちは考えています。

仮設住宅を出て新たな土地に移る今、
新しいコミュニティに不安を感じる人、
遠慮がちになってしまう人 馴染めない人
が増えています。

私たちが、現在も継続して展開する
寺子屋と健康農業の参加者に「なぜ通い
続けているのか」とアンケートで尋ねた
ところ、圧倒的に多い回答が「友達に会え
るから」「友達と一緒にできるから」です。

震災で失われた「コミュニティ」や
「役割」といった目に見えない「暮らし」
の大切な部分、心の居場所を、ロシナン
テス東北は提供しています。

わたしたちは、
ここ東北にいます。

子どもでいられる時間は、短い。
貴重な時間だからこそ、
強力なサポートが必要です。



Mさん(14歳)巨理町内の中学校に通う3年生。出身は福島県南相馬市。「寺子屋は温かい家のような場所。なくては困る存在です」。将来は幸せな家庭を築いて、幸せな人生を送りたいという。

学校に行つて勉強をする。給食を食べて友達と遊ぶ。宿題が嫌だと思ふ夜があったり、学校に行きたくない朝があったりしても、一定のリズムで毎日が過ぎていく。そんなおだやかな生活が成長には大切なのだと思います。ところが突然、日常は奪われました。Mさんが小学4年生のときでした。Mさんの故郷は、福島県南相馬市です。あの日、Mさん一家は飯館山に避難しました。けれども、すぐに放射能の危険性が指摘されはじめました。そこで新潟に避難します。

勉強の仕方がわからなくて、やる気が起きない。それが寺子屋の門を叩いたきっかけでした。震災後の混乱のなか、環境の変化に適應するだけでも大きな負担です。そのうえ子どもたちは、自分の将来を見据えた勉強をしなければなりません。中学生ともなれば、勉強も難しくなり、高校受験も迫ってきます。置かれた環境とは関係なく、成長のタイムスケジュールは待つてくれないのです。寺子屋に参加して2年。Mさんは「勉強が楽しくなった」といいます。この前、Mさんは英検3級を受験しました。1次試験に合格し、たたいま2次試験の勉強中です。「ここに来なければ、英検なんて絶対に受けていなかったし、受けようともしなかったと思う」その言葉に、気持ちが前向きになっているのを感じます。

いけたのかもしれない。しかしいま、Mさんの進む道には曲がり角が増えました。そのぶん、出会う人が多くなり、新しい世界を垣間みる機会も増えました。子どもでいられる時間は、そう長くはありません。その大切な時間に、私たちは何をすべきか。つねに自問をつづけています。

先日、Mさんは甲状腺検査のため、福島に戻りました。以前に通っていた小学校が検査場所だったので、かつての友人たちにも多く会ったといえます。けれども、みんな生活環境が違つたため、話が合わず、そのまま別れたようです。立ち止まらず振り返らず、一人ひとりが自分の道を歩きはじめている証拠だと思っています。

「先生と仲よくなつてよかった。いまは幸せ」ひとりでは越えられない壁でも一緒に乗り越えられる。この冬、Mさんは高校受験に挑戦します。

学習支援事業「寺子屋」

学校が終わったらすぐさま友だちと集う。仮設住宅集会所は、ぼくたちの学び場であり遊び場



震災によって、子どもたちは学びの場を失いました。遊ぶ機会も、なくなりました。一人につき一畳ほどのスペースしかない避難所に、子どもの居場所はありませんでした。我慢ばかりが求められる子どもたちに、集中して勉強できる場所を友達と笑ひ合える時間をつくつてあげたい。そんな想いから生まれたのが「寺子屋 開上」です。震災後わずか3か月弱、2011年6月のことでした。

「寺子屋開上」は評判になり、巨理からも要請がありました。そこで同年12月には「寺子屋巨理」を開校。現在にいたります。

地域で子どもを育てる。そんな古き良き日本の風習が、開上や巨理には息づいていました。しかし震災で、これまで築き上げてきた地域のコミュニティは崩壊してしまいました。仮設住宅で再び生まれた地域コミュニティも、復興が進むにつれ崩れつつあります。仮設を離れる子どもと残る子ども。どちらの子どもたちの未来も、しっかりと照らしつづけた。私たちはそう考えています。

農業をとおして、
希望や生き甲斐の芽も守りたい。



和子さん(87歳)巨理町吉田地区出身。現在、住み慣れた吉田地区を離れて、街のなかにある災害公営住宅で一人暮らし。ここに来て、みんなで食べるお昼がとてもおいしいという。

和子さんの年齢を聞いて、私たちは驚きました。87歳。背筋をピンと伸ばして、しっかりと足取りで歩く姿は、ずっと若く見えます。ご主人が他界されてからは一人暮らし。震災前も、仮設住宅でも、お一人で生活されています。

「元氣なうちは、子どもたちに迷惑をかけたくないから」その氣丈な言葉には、感動さえ覚えます。いつも朗らかで、ジョークを飛ばしていますが、仮設住宅では知り合いが少なく、とけ込めなかったといいます。そのため、気分も沈みがちになり、外出がおっくうになっていったようです。

「うち」畑は私にとって大切な活動。ここから、生活に張合いが出る。和子さんは言います。「定期的に同じ仲間に出会うことが嬉しい。デイサービスは、あれこれ世話になりっぱなしで抵抗があるが、健康農業なら血洗いなどの手伝いもできるしね」その言葉に、私たちの活動の意味が集約されています。巨理では現在、災害公営住宅の整備が整い、多くの人が転居をはじめています。和子さんもその一人。ふたたび新しい環境に、一人で立ち向かわなければなりません。

前を向いて頑張る和子さんをはじめ、多くの高齢者の皆さんを支えていきたいです。

健康農業 巨理いちご畑

それぞれの役割で作業をすすめ、みんなで収穫した野菜をお昼ごはんにいただきます。「みんなで食べるとおいしいね！」



東日本大震災で、お年寄りが受けたダメージは、計り知れないほど大きなものでした。すべてを失った喪失感と、先が見えない不安感から、心を病んでしまう方も数多くいました。

安心感が持てる生活をする。ためらわずに自分の気持ちを表に出すこと。さまざまなお年寄りたち、絆が実感できる環境のなかで暮らすこと。こうしたことが、当時のお年寄りには必要でした。

そして、とり着いたのが、健康農業です。巨理はもともと、いちごの生産地。ならば、いちごの栽培をとおして、心のケアができるのではないだろうか。私たちは考えました。農作業をすすめるなかで、地域の人々と心の交流が生まれ、生きるチカラがわき上がる。そんなお年寄りの姿を思い描きながら立ち上げたのが、「コミュニティファーム」健康農業巨理いちご畑」です。

2014年度は、仮設住宅に住む61名のお年寄りが参加した巨理いちご畑。畑からは、今日もお年寄りたちの笑い声が聞こえます。

2014年度 メディア紹介一覧

新 京都市新聞夕刊(5/16)「スーダンに『和』広がれ」日本
スーダン交流館『無東西』建設の紹介 **長崎新聞**
(ローカル面)(6/8)「できることから始めよう」講演
会(6月7日・長崎大にて開催)について **読売新聞**夕
刊・連載(6/9～13)東北事業部長大嶋一馬の紹介
「『がれき撤去隊長』拝命」「知らなかった悲しみ」「し
たいこと見つかった」「イチゴ畑に戻った笑顔」「誰
かのために寄り添う」 **読売新聞**夕刊(6/12)「スー
ダンで和の文化発信」建設中の『無東西』紹介 **西日
本新聞**(6/12)「スーダンで“日本”発信」建設中の
『無東西』紹介 **読売新聞**朝刊(8/8)「子どもの居場
所守る」寺子屋開上活動紹介 7/29-30開催の寺子
屋交流会について **読売新聞**(地域・北九州)(8/22)
「スーダンに日本文化広めて」高須中から『無東西』
への書籍寄贈 **東京新聞**夕刊(9/4)「子ども集まる
仮設の寺子屋」寺子屋亘理活動紹介 **JapanTimes**
(9/8)「Terakoya' let Tohoku kids study in
peace」寺子屋亘理活動紹介 **毎日新聞**(地域・北九
州)(9/14)「スーダンに交流所完成」日本スーダン
交流館『無東西』オープニングセレモニー **読売新
聞**(地域・北九州)(9/15)『無東西』完成 日本スーダ
ン交流館『無東西』オープニングセレモニー **朝日
新聞**(9/17)「仮設住宅の塾 響く笑い声」寺子屋開上
活動紹介 **朝日新聞**(9/18)「引越しても学ぶ場
は同じ」寺子屋開上 仮設住宅を出た小学生の紹介
朝日新聞(9/19)「震災で実感 毎日が大切」寺子屋
開上 仮設住宅に住む中学生の紹介 **朝日新聞**
(9/24)「1期生就活 地元出て挑戦したい」寺子屋開
上 卒業生の進路について **アル・ムスタギッラ新聞**

新 (スーダンの新聞)9月掲載「無東西について」 **毎日**
新聞(地域・北九州)(10/4)「母校の機田中で川原さ
ん講演」講演会(10月3日・機田中学校にて開催)掲
載 **西日本新聞**(北九州版)(10/6)「素晴らしい社
会築こう」講演会(10月5日・JICA九州にて開催)掲
載 **毎日新聞**(地域・北九州)(10/8)「活動資金づく
りに卓上カレンダー作成」カレンダー告知(田地野・
山本) **読売新聞**夕刊(10/14)「克服できる貧者の
病」さだまささんの記事の中で川原尚行の話掲載
山陽新聞朝刊(10/15)「支援には信頼関係重要」講
演会(川崎学園祭・10月12日開催)掲載 **上毛新聞**
(10/18)「三山春秋」コラム内に講演内容掲載 **上
毛新聞**(10/21)「信頼関係が重要」講演会(10月16
日・群馬市民大学講座で開催)掲載 **山陽新聞**夕刊
(11/7)「地域溶け込み信頼培う」講演会(川崎学園
祭・10月12日開催)講演要旨 **山陽新聞**朝刊
(11/12)「地域に入り信頼培う」講演会(川崎学園
祭・10月12日開催)講演要旨 **西日本新聞**(社会面)
(15/2/2)イスラム国日本人殺害記事内にコメント
掲載 **朝日新聞**(社会面)(15/2/3)「医療届いてい
ない地域に医療を」イスラム国関連のニュースが飛
び交う中、安全に留意して活動しているコメント掲
載 **読売新聞**(3/8)「健康維持に畑作業 宮城・亘理」
健康農業活動紹介 **河北新報**(3/10)「イラク行政
官 被災地視察」被災地研修 JICA視察団受入れにつ
いて **読売新聞**(3/12)「手作りの竹灯籠に犠牲者
悼み歌う健康農業 3/11追悼行事の紹介 **西日本新
聞**(3/12)「学ぶ力を育む」寺子屋開上活動紹介 **読
売新聞**(3/14)映画「風に立つライオン」取材記事掲

新 載(広告一面) **琉球新報**(3/26)コラム「南風」内で
新 歌手のしおりさんの記事内に川原尚行と「風に立つ
新 ライオン」関連内容掲載 **河北新報**(3/28)「笑顔咲
く畑 守り抜く」健康農業／副部長 田地野の紹介

新 **KHB東日本放送**(7/7)「つなごう！宮城のチカラ」
新 健康農業事業活動紹介 **KHB東日本放送**(9/1)「つ
なごう！宮城のチカラ」7/29-30寺子屋交流会紹介
日本テレビ(15/3/14)「風に立つライオン」特番イ
ンタビュー

新 **FMあおぞら**(8/9)「あおぞらインタビュー」健康農
新 業納涼祭イベント告知 **FMあおぞら**(8/21・25・
26)「あおぞらレポート」健康農業納涼祭イベント報
告 **FM FUKUOKA**(15/3/11)「モーニングジャ
ム」大嶋一馬出演

新 **Mundi(JICA広報誌)5月号「Voice」**©川原尚行・団
新 体設立～スーダン・東北について **Lognote(ログ**
新 **ノート・広島)8月号**(No.116)「News pick up」7月
19日の広島講演(川原尚行)について **MSCボラン**
新 **ティア☆サロン**だよりボランティアサロンでのイ
ベント紹介誌(8月27日・No.361)6月24日の講演
(大嶋一馬)について **暮楽人(クラウド)**(広島)
vol.141マエダハウジング発行「暮楽人スペシャル
対談マエダハウジング社長・川原尚行スペシャル対
談」 **2015年版北九州予備校 医・歯・薬・獣医専門**
新 **コースFelix入学案内パンフレット** 北予備OBから
のメッセージ寄稿

2014年度 講演会イベント実績

川原 尚 行

医療法人 健康会 京都南病院グループ(5/17) 中外製薬株式会社(5/18) 佐賀
龍谷学園 龍谷中学校・高等学校(5/21) サッポロフレンズ(5/26) 北海道大学
国際医療協力勉強会「なまらambitious」(5/26) 上智福岡中学高等学校 生徒会
(5/28) 福岡大学 講義(6/4) 「集え！長崎」実行委員会(6/7) 地方独立行政
法人 長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター市民病院(6/8) 長崎市
教育委員会(6/9) 土浦日本大学高等学校(6/13) 日本透析医学会ランチョン
セミナー(6/14) 福岡市立百道浜小学校(6/16) 済生会福岡総合病院(6/19)
有限会社 大蔵笑「川原尚行医師講演実行委員会」(7/19) JCIグローバルパートナー
シップサミット2014(アメリカ合衆国ニューヨーク 国際連合本部内)(7/24)
長崎大学医学部整形外科学教室(9/20) 自衛隊中央病院 高等看護学院(9/26)
北九州市立機田中学校(10/3) 青山社中株式会社(10/3) 独立行政法人国際協力
機構 九州国際センター(10/5) 福岡経済同友会(10/7) 福岡市立警固小学校
(10/8) 福岡県立宗像高等学校(10/9) 金沢大学国際学類(10/10) 慶應義塾
福澤諭吉記念文明塾(10/11) 川崎医科大学 川崎学園祭(10/12) 国立大学法人
熊本大学(10/15) 群馬市民大学講座(10/16) JC明豊会(10/16) 小金井市立
小金井第二中学校(10/18) 福岡県立修猷館高等学校(10/20) 電源開発株式
会社 橘湾火力発電所(10/21) 徳島大学 消化器移植外科(10/21) 久留米信愛
女学院中学校・高等学校(10/23) 福岡県国際理解教育研究会(10/24) 熊本大学
国際社会医療研究会(10/25) 長崎県対馬いづはら病院(10/27) 福岡県立苅田
工業高等学校(10/28) 茨城県立並木中等教育学校(10/29) 福岡教育大学 附属
小倉小学校(15/2/14) 一般社団法人 宮崎青年会議所(15/2/16) 北九州市立
高須中学校(15/2/21) 北九州市立 高槻小学校(15/2/23) 東京慈恵会医科大学
外科学講座消化器外科(15/3/2) 株式会社 西日本シティ銀行(15/3/7)

大 嶋 一 馬

福岡県立若松高等学校(6/7) あしがら平野一円塾(6/14) 田辺三菱製薬
株式会社(6/24) 福岡県立小倉高等学校 父母教師会 研修委員会(6/27)
友幸会 異業種交流会(9/29) 西山浄土宗 西部布教師会(10/16) 宰城会・
筑紫野市教育研究会(15/1/20) 北九州市立湯川小学校(15/1/27) 浄土
真宗本願寺派(西本願寺)第15回ビハーク活動全国集会(15/2/15)

海 原 六 郎

北九州市立今町市民センター(8/6) 嘉麻市立熊ヶ畑小学校(11/14)
北九州市小中学校長会(12/16) 北九州市立三郎丸小学校(12/22)
遠賀町立広渡小学校(15/1/17)

神 木 英 里

一般社団法人日本看護学教育学会 第24回学術集会 ナーシング・サイエンスカフェ(8/27)

櫻 井 文

NPO法人ふれあい塾あびこ・特選公開講座(6/9)

田 地 野 茜

大阪うつばロータリークラブ卓話(15/3/10)

綾 田 早 笑

大阪うつばロータリークラブ卓話(15/3/10)

広 報 イベント

ロシナンテス活動報告会@福岡(6/16)

わっしょい百万夏まつり ブース出展(8/2・3)

グローバルフェスタ2014 ブース出展(10/4・5)

集え！ロッシーサポーターの会@東京(12/13)

集え！ロシナンテス学園@福岡(15/3/1)



丹精こめて育てた大根が、こんなに大きくなりました。畑からは笑い声が絶えません。

学習支援事業「寺子屋」
2011年6月に始まった「寺子屋」事業は、今年で5年目を迎えます。2014年3月には、第4期生となる子どもたちが卒業し、高校生活をスタートさせました。寺子屋第1期生は、今年19歳。この春から社会人としての一歩を踏み出した子もいます。復興がすすむなか、一人ひとりがそれぞれの歩みを確実にすすめています。寺子屋は、週5回午後5時から9時まで授業がおこなわれています。宿題を中心



今年の一文字をしたためました。寺子屋新年会でのワンショットです。

秋から冬の農閑期には、ビニールハウスひとりの身体能力や健康状態、精神状態をつねに把握し、できる範囲で役割を担当してもらっています。追悼行事「鎮魂と希望の祈りを灯そう」をおこないました。竹灯籠に火を灯しながら参加者の方々が親睦を深めました。亘理は、平成27年にすべての災害公営住宅が完成します。これにより、ほとんどの被災者が恒久住宅に移ることになります。仮設住宅でのコミュニティから離れることで、孤立や引きこもり、運動不足など健康に悪影響が出ないように、私たちも心を寄せて活動をつづけたいと思います。

健康農業亘理いちご畑
「健康農業 亘理いちご畑」の活動時間は月曜日から金曜日の8時半から13時半。毎朝 仮設住宅にお年寄りたちをお迎えに行くところから、一日は始まります。平成26年度は、亘理町内5か所にあるすべての仮設住宅から参加者を募集しました。すると、前年度まで39名だった参加者が61名に増加するため、耕作地の拡大をおこないました。東北事業部の近くにある800平方メートルの休耕地を借りて、開墾から作付け、収穫と、精力的に活動をすすめることができました。



実りの秋！笑顔も収穫しました。

に、予習、復習、試験対策をすすめています。通常の授業のほか、第9回を数える寺子屋交流会では、大自然が広がる夏の蔵王で想いっきり遊んできました。仮設住宅は狭く、遊ぶ場所も十分ではありません。そんな子どもたちにとって、最高の思い出になったことと思います。また、9月には「スーダンについて学ぼう」と題した寺子屋課外授業をおこないました。いま、まちは復興に向けて大きくすすみはじめています。そのため、仮設住宅を出る家庭が増え、残された子どもたちは寂しさを感じているようです。寺子屋に通う子どもたちも、2012年には年間のべ8500人だったのが、2014年度には約3000人と大幅に減少しています。今後、まわりの環境がどう変化していくのか私たちもわかりませんが、一人ひとりがそれぞれの道をしっかりと選択し、歩んでいけるように2015年度もサポートして参ります。

被災地交流事業「東北を歩こう」

東北のいまを感じてほしい。

そして東北が抱える問題と共有したい。

そこから未来が見えると信じて活動しています。

2012年7月に実施して以来、団体個人を問わず「東北を訪れたい」という要望に応えて受け入れを続けています。

参加が団体の場合、いくつかのコースを提示して、ニーズに合わせた受け入れをすすめています。そのひとつ、語り部コースでは、当時の状況や避難所の生活、復興の現状などを語り継ぐ閣上震災を伝える会が案内。交流コースでは、「健康農業亘理いちご畑」の高齢者の方々とふれあう機会を設けています。

参加が個人の場合は、被災地を実際に見たり、健康農業事業に参加したり、イベント運営のサポートをお願いしたりしながら、さまざまな活動を体験していただいています。

これまで国内外から幅広い年齢層の方にご参加いただきました。被災地を訪れることは、東北の問題を共有するだけでなく、訪れた人たちの防災意識の向上にもつながります。それぞれの自分が自分の防災について考える貴重な機会となりますように。

●個人ボランティア・来訪希望者の受け入れ
個人180名(延べ566名)
●団体の視察・研修・アテンドコーディネート／団体7件(延べ167名)
団体来訪者様紹介／大阪うつばロータリークラブ様／コンパスポイント様／日本全国スギドラッグ倶楽部様／Think東北様／河合塾Cosmo様／福岡工業大学付属城東高校様／北海道佐呂間町議会様／静岡県立浜松湖東高校様／福岡県立小倉高校様／JICAイラク・クルド行政官視察団様



お茶会でとても仲良くなった高校生とおばあちゃん。帰った後も手紙のやりとりをしたそう。



ISISの侵攻で避難民が発生しているイラクより行政官が視察へ。亘理町の仮設住宅集会所にて。



来訪する大学生に被災状況を説明する工藤(寺子屋開上 塾長)。名取市開上日和山上来て。

「ロシナンテスの活動を支援する」

ロシナンテスの名前の由来である「小さな力(ロシナンテ)」がたくさん集まれば大きな何かができると信じて――。
あなたもロシナンテスの一員になりませんか？

継続的に寄付をする 協力会員になる

毎月寄付する 支払い方法 銀行口座自動引落し／クレジットカード  

ひと月
1,000円
(約33円/1日)

ひと月
3,000円
(約100円/1日)

ひと月
5,000円
(約166円/1日)

ひと月
10,000円
(約333円/1日)

毎年寄付する 支払い方法 銀行口座自動引落し／クレジットカード  

毎年 **3,000円**

毎年 **5,000円**

毎年 **10,000円**

1年間会員になる 支払い方法 郵便局  ゆうちょ銀行

個人会員 **3,000円**～

学生会員 **1,000円**～

団体会員 **30,000円**～

今回のみ寄付をする 支払い方法 銀行口座自動引落し／クレジットカード   / 郵便局  / 銀行口座振込

活動全般に寄付をする

スーダンの活動に寄付をする

東北の活動に寄付をする

ボランティアをする 登録制

日本事務局や東北でイベントや事務作業のお手伝い(不定期)をお願いいたします。

お支払い方法

クレジットカード  

お申込みはホームページから
<http://www.rocinantes.org/>

銀行口座自動引落し

所定の申込用紙を送付させていただきますので
日本事務局へご連絡ください。

郵便局 

(恐れ入れますが振込手数料をご負担願います)
郵便局備え付けの払込取扱票にて下記口座へお振込みください。
口座記号:01720-3 口座番号:74330 店名:一七九
加入者名:NPO法人ロシナンテス

銀行口座振込 (恐れ入れますが振込手数料をご負担願います)

「活動全般・スーダンの活動への寄付」
金融機関:三菱東京UFJ銀行 北九州支店
口座番号:普通預金 No.0069309
口座名義:特定非営利活動法人ロシナンテス
「東北の活動への寄付」
金融機関:西日本シティ銀行 三萩野(ミハギノ)支店
口座番号:普通預金 No.2135060
口座名義:特定非営利活動法人ロシナンテス

※銀行口座振込をご利用の方で領収書をご希望の場合は下記項目を
電話またはメールでお知らせください。
【振込日・振込者名・ご住所・振込いただいた金額・領収書発送(年一括・毎回)】

みなさまのご寄付が大きな支援活動につながります。



ロシナンテスへのご寄附は
寄付金控除等の税の優遇措置を受けることができます。

例えば、

個人で毎月**1,000円**クレジットカードで寄附した場合、
総寄附額は、**1,000円×12か月=12,000円**ですが、
確定申告で税額控除の適用を受けることで
(12,000円－2,000円)×40%=4,000円が還付されるため、
実質年間ご負担額は、
8,000円(=12,000円－4,000円)となります。
※これらを受けるためにはロシナンテス発行の寄附受領書が必要です。

個人で
ご寄附
の場合

所得税の寄付金控除として、
所得控除 又は **税額控除** のいずれかを選択適用できます。
※控除適用されない場合もございます。詳しくは税務署にご確認ください。

【**所得控除**】年間寄附額から2千円を控除した金額を、
その年分の**総所得金額**から控除
【**税額控除**】年間寄附額から2千円を控除した金額の
40%相当額をその年分の**所得税額**から控除

個人住民税(地方税)の計算において、寄附金税額控除が適用されます。
(都道府県又は市区町村が条例で指定した認定NPO法人等に個人が寄附した場合)
※詳しくはお住まいの都道府県又は市区町村にご確認ください。

法人で
ご寄附
の場合

一般のNPO法人に寄附した場合の一般損金算入限度額とは別枠
の特別損金算入限度額の範囲内であれば損金の額に算入すること
が認められます。なお、寄附合計額が特別損金算入限度額を超える
場合には、その超える部分の金額は一般寄附金の額と合わせて、一般
損金算入限度額の範囲内で損金算入が認められます。
※詳しくは税務署にご確認ください。

お問い合わせはロシナンテス日本事務局まで
TEL 093-521-6470 TAX 093-521-6471
info@rocinantes.org

組織概要・収支報告

組織概要

2015年7月現在

名称	特定非営利活動法人 ロシナンテス
代表者氏名	理事長 川原尚行
事務局所在地	〒802-0082 福岡県北九州市小倉北区古船場町1-35 北九州市立商工貿易会館7階 TEL.093-521-6470
設立	2005年10月(NPO法人設立 2006年5月)
スタッフ数	25名 ・スーダン事業部／13名 ・東北事業部／6名 ・日本事務局／6名

役員一覧

理事長	川原 尚行
副理事長	新井修一郎 竹中 賢治
理事	東 晃一 安西 馥 内田 賢介 大嶋 一馬 岡留健一郎 海原 六郎 桑野 博行 柴田 文壽 島田 光生 鈴木 守 高濱 英子 武冨 紹信 福地 茂雄 前原 喜彦 松股 孝 武藤 義博
監事	坂井 一郎 矢永 啓助

(五十音順)

活動計算書

(単位:円)		
収入の部	①会費・入会金収入	15,356,057
	②事業収益(受託事業収入・JICA)	56,076,693
	③助成金収入	1,500,000
	④寄附金収入	47,901,871
	⑤雑収入(物品販売等)	12,048,980
	当期収入合計(A)	132,883,601
支出の部	海外活動費	
	①生活改善事業	67,409,585
	(保健医療事業・水・衛生事業)	
	②交流推進事業	31,907,665
	(スポーツ事業・人材交流事業)	
	国内活動費	
	③救援・復興協力事業(東北)	30,946,445
為替差益(C)	④広報活動	15,475,658
	⑤事務局	16,546,983
	当期支出合計(B)	162,286,336
為替差益(C)		1,238,476
法人税(D)		151,000
当期収支差額(A-B+C-D)		-28,315,259
前期繰越収支差額		151,566,887
次期繰越収支差額		123,251,628

特定非営利活動に係る事業会計活動計算書(第9期:2014年4月1日から2015年3月31日まで)

沿革

ロシナンテス発足からのおもな活動

年	月	内 容
2005	10	スーダン共和国にNPOロシナンテス立ち上げ
2006	5	北九州市にNPO法人ロシナンテス設立
	8	スーダン共和国政府に国際NGO登録
		スーダン東部ガダーレフ州で巡回診療開始(～2013.6)
2007	2	ガダーレフ州ハサバツラ村で診療所開設・運営(～2013.6)
2008		女子学校建設プロジェクト始動 (在スーダン日本大使館 草の根無償資金援助・2009.6開校)
2009	1	スポーツ事業開始(日本サッカー協会協力)
2010	4	母子保健事業開始(JICA草の根技協・～2013.3)
2011	3	東北・被災地巡回診療開始(～2011.4)
		東北・被災地がれき撤去作業開始(～2012.4)
	6	東北・学習支援事業「寺子屋」開始
	7	日本スーダン交流事業「天の川プロジェクト」実施
	10	被災地住民新聞「閑上復興だより」発行サポート(～2014.3)
2012	1	国税庁長官より認定を受け、認定NPOとなる
2013	1	東北・健康農業事業開始
	6	ハルツーム州ワドアブサレー地区で巡回診療開始
2014	6	医療機器・サービス国際化推進事業(調査)実施 (経済産業省より受託・～2015.2)
	9	ハルツーム大学に日本スーダン交流館「無東西」開設
2015	1	北コルドファン州で栄養改善事業開始(国連WFPと連携)

2014年度活動計算書に関して

2014年度はロシナンテスが発足して以来、初めての大幅な赤字を計上してしまいました。まずは、これまでロシナンテスを支えてくださっている皆さまに心からお詫び申し上げます。

このような結果となった主な原因は、予定していた収入が確保できなかったことです。支出については、ほぼ予算通りに収まったのですが、受託金額やご寄附の金額等が予定通り確保できず、ご覧の結果となってしまいました。

ここ数年、活動の規模が大きくなるにつれ、収入増の傾向で推移してまいりましたが、2014年度に関しましては、足踏み状態となりました。

ロシナンテスではこれまで、活動に注力するあまりに、資金調達や広報にそれほど力を注いでおりませんでした。それでも、何とかここまでやってくることができました。

しかし、これからは、これまで以上にロシナンテスの活動を広く広報し、賛同してくださるご支援者様を増やす努力をして参ります。また、インターネットやSNSを利用した広報活動にも力を注いでいかなければなりません。

皆様一人一人をロシナンテと信じ、皆様方の力を結集して、強靱なロシナンテスを結成させてまいります。より一層の御支援・御協力をお願い申し上げます。